

江北の四季

令和3年

4月6日

第49号

○長尾寺

稽古仲間のIさんから「長尾寺のイチリンソウがよかったよ」と聞いて、早速、四月五日(月)に行ってきました。

国道305号線からグランスノー伊吹(奥伊吹スキー場)へ行く途中の米原市大久保にあるお寺です。お寺のホームページによると、開山は六五一年で、鎌倉時代には山門(仁王門)、護摩堂、毘沙門堂、地藏堂、不動堂、権現堂など寺観が大いに整えられ、長尾寺四十九坊と呼ばれる程だったそうです。しかし、一五七三年の姉川の合戦の折、織田軍の兵火により堂宇の大半を焼失し、その後復興をしましたが、一八七六年には大久保村の大火によりほとんどを失いました。現在はお寺の四十九坊の一つである惣持坊が長尾護国寺の跡目を継いで、伊吹山長尾護国寺(惣持寺)として、焼失の免れた二昧の毘沙門さまを祀^{まつ}っておられます。

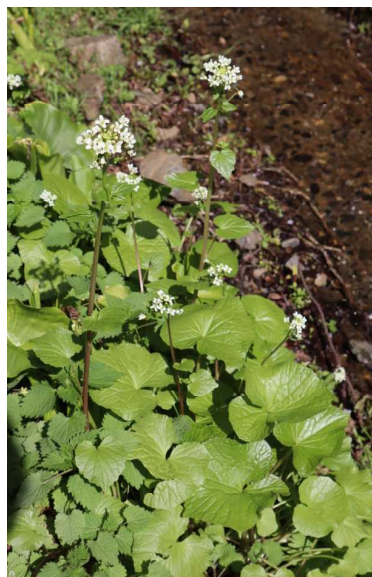
坊守さん(住職の奥様)に挨拶をした後、毘沙門堂から杉木立の中を歩いて遺跡散策、いや山野草探索を半時間ほどしてきました。こんな近くに山野草の宝庫があるとは、本当に驚きでした。



キブシ(木五倍子)

山の斜面に

寺の横を流れる小川のそばに

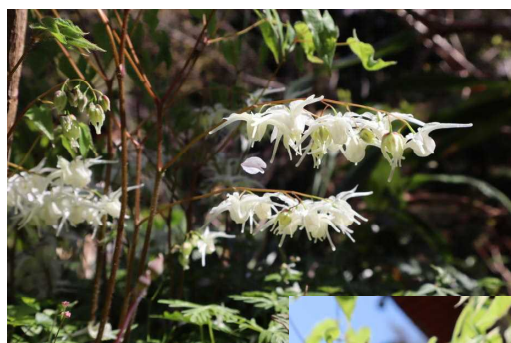


ユリワサビ



ミツマタ(三桠)の花

毘沙門堂前



イカリソウ(錨草、碇草) 紫、ピンク、白



イチリンソウ(一輪草) 右も



ムラサキケマン(紫華鬘)



ニリンソウ(二輪草)



ダイコンソウ(大根草) 左も



セツブンソウ(節分草) 花は終わって実

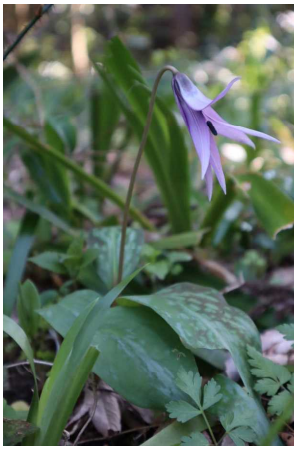
☆Spring ephemeral

スプリング・エフェメラル、直訳すると「春のはかないもの」「春の短い命」です。「春の妖精」とも呼ばれます。春先に花をつけますが、花はすぐに終わり、本格的な春が来る頃には葉のみとなります。大急ぎで光合成をして地下茎や球根に栄養を貯め、夏の初めには葉も枯れてしまいます。地上に姿を見せる期間は約二ヶ月だけとなります。まさにスプリング・エフェメラルです。

代表的なものには、フクジュソウ、セツブソウ、イチリンソウ、ニリンソウ、カタクリ、シヨウジョウバカマなどがあります。



カタクリ(片栗) 左も



オドリコソウ
(踊り子草) ピンク



オドリコソウ 白



フタリシズカ(二人静) 左も



バイモユリ(貝母百合)

☆坊守さんによると、今年花の咲くのがずいぶん早いとのこと。カタクリもほとんど終わっていました。写真はやつと探し当てたものです。でも、これだけの花を見られて、充分堪能しました。



タチツボスミレ(立壺堇)



生花正風体一種生

モクレンの花は開くと蓮はすの花に似ているので木蓮と書くとか。三月末の法事にいけました。折れやすい枝なので火であぶって撓ためています。

